―休眠預金等活用法成立を受けて―
「新基金」の運営構想
（資金の流れと運営I；枠組み）

2017.9.27

新基金の目的
◎「あいちモリコロ基金」の理念と成果を継承する。
◎これからの時代に必要な活動・人・組織を育てる。

資金の流れは二つ。①【休眠預金】と、それを呼び水として②【地域独自に集める】

休眠預金活用制度

〈休眠預金の流れ〉
1.「金融機関等」から
〈交付；年700億円〉
2.「指定活用団体」（全国で1）
〈助成・貸付〉
3.「資金分配団体」（全国約20）
〈助成・貸付・出資〉
4.「民間公益活動団体」へ

助成
貸付
平成31年秋スタート

地域独自で集める

多種多様な寄付を募る（マンション型基金）

寄付内容（中部圏の課題）
◇万博理念（持続可能社会）
◇南海トラフ巨大地震対策
◇スーパーメガリージョン対策
◇地域・コミュニティ創生
◇起業の開発促進
◇ほか

寄付者の想定
◇企業・団体・個人

寄付の形態
◇慈善／遺贈／CSR／地域協力／その他

寄付
貸付
寄付者の意志生かす
市民の自発性

新基金運営団体

資金分配団体に立候補する
●資金分配団体の要件
中間支援団体／経験と実績／市民運営
●事業（活動）内容
助成・貸付・出資で支援する

地域資源を集める
●「公益性」、「社会的信頼」、「支援と評価の適確さ」が必要。

運営組織構想骨子
1、【組織形態】一般財団法人
◇基本財産；300万円以上
◇設立者+役員（理事・評議員・監事）
2、【活動エリア】中部5県
◇モリコロ基金の地域スキーム（愛知・岐阜・三重・静岡・長野）を継承。
3、【構成】産官学民で
◇モリコロ基金設立者（愛知県、名古屋市、名商、中経連）の支援と運営経験活かし
◇中部5県の産・官・学・NPOでつくる。
4、【発足・展望】
◇平成29年中に自己資金でスタート。
◇調査研究、研修事業着手。資金分配団体に立候補し、平成31年秋以降本格活動。

助成
貸付
出資

募集
審査
支援
評価

【休眠預金による支援】
●民間公益活動団体へ
①生活上の困難者支援
②子ども若者支援
③困難地域支援
④政令で定める
●選定要件のポイント
◇社会の課題解決
◇行政が出来ないこと
◇成果を見える化し評価
★「モリコロ助成事業」の一部は支援可能と想定。

【地域資源による支援】
●自己判断でテーマ設定する
●休眠預金制度から漏れる活動
●マンション型基金の多様性・効率性を活かす

【本基金の特徴】
●中部圏で課題解決する
（南海トラフ巨大地震、スーパーメガリージョン対策、地域活性化等）
●持続性（人材・組織）の育成
（人材開発研修、研究支援、地域力向上）
●調査研究・研修機能充実